

ティータム

在日ベトナム人が祝う旧正月「テトの集い」について

国6-国 十倉 康夫

“わ”国際部会では在日ベトナム人が組織する“NGOベトナム in KOBE”と数年来のお付き合いを保っているため、同NGO主催の彼等が祝う「テトの集い」について従来からの経緯を含めて参考までにご披露します。

兵庫県下、特に神戸市内には多くのベトナム出身者が在住しているが、彼等は2001年にベトナム人自身の自助組織として“NGOベトナム in KOBE”を立ち上げた。当初NGO代表者は在日約20年のマン(Man)牧師であったが、昨年在日約20年の女性ガ(Nga)さんが引継いだ。NGO傘下の同胞と言っても在日経験年数の長短、老若年齢差による考え方の違い、母国語に疎遠な日本生まれの新世代、資金集めの苦労、機関紙発行等仲間の啓蒙や組織固めにガさんは多忙な様子。

国際部会では難民事業本部関西支部(外務省の外郭団体)の紹介により創設間もないころNGO本部(長田区の鷹取カトリック教会内)を訪問、我々として無理なくできるボランティア活動をマン代表と打ち合わせた結果、娯楽が少ない高齢者をシルバーカレッジ学園祭に招くこと、ベトナム産品を販売して彼等の資金造りにいささかの協力をすることを打ち合わせ、2001年の学園祭から実行。昨年の学園祭まで計3回、国際部会男女部員の協力によりベトナム春巻・ベトナムコーヒー等を来場者に飲食して頂けるようになりガさんに喜んでもらっている。

表題のベトナム人が祝う旧正月「テトの集い」は、同NGOがマリスタ国際学校(須磨区)を借り、ベトナム人3百人位に邦人仲間も加わって毎年新春に開催。この「テト」の催し物には、国際部会の有志や文化部会メンバーの協力も得て手品・新舞踊等の演目を披露し昨年、一昨年ともに好評であった。若手のベト



紙芝居もあって...



民族衣装のショー

ナム人仲間が心身共に成長してきたのでことはベトナム人自身の手ですべてを取り仕切ってみようとのNGOの方針により協力出演の依頼は無かった。小生はマリスタ学園の近くに居住している国際部会の一部員だが、偶然出会ったガさんから「テトに来て頂戴よ」と声をかけられたので顔を出してみた。従来同様の盛況で難民事業本部の顔なじみも家族連れで参加していた。

ことしの「テトの集い」については偶然会ったガさんから個人的に知らせて貰うまで小生は開催情報に接し得なかった。“わ”本部には「テトの集い」の案内を郵送済みとのガさんの話に間違いがなければ、恒例行事ゆえ国際部会の例会議事録に一言PRして部員の参加勧誘を募る手だてを打ってあげると例会欠席者にも情報が伝わり“わ”としてのNGOに対する気遣いや親切心が発揮できるのではなかろうか。“わ”のNPO法人化の事業目標には「外国人への生活助言・支援事業」が謳われているのだから数年来のお付き合いがある“NGOベトナム in KOBE”との友好関係を緊密化する心遣いが“わ”のメンバーには課されているのではなかろうかと“情報ギャラリー”への寄稿を依頼された機会に一言私見を呈します。

春日野道まちづくり協議会でマジックを披露

音6-中 湯口 澄比古

中央区八雲通にある市立春日野道地域福祉センター、八雲児童館にて2月21日(土)地域の高齢者に婦人会も参加し、約50名の方々が“ふれあい食事会”を開き、それにお招きを受け出席をしました。マジッククラブ代表の中川安庸さん(生環6期)、森田明朗さん(国際8期)、浅原サチ子(福祉8期)そして司会進行役に湯口澄比古の4名です。もちろんマジックでボランティアをさせていただきました。

会場へ着くとまず食事を皆と一緒にと誘われ、ご馳走になりました。にわか作りの舞台、つまりテーブルを使い3人が交互に妙技を披露しました。車椅子の老人ホームでは、拍手も無く笑声も聞けず静かな雰囲気でしたが、ここでは皆元気な高齢者ばかりで、少しでもトチればヤジも飛び、妙技には歓声と拍手、笑い声もわき喜んで貰ったひと時でした。

福祉センターの世話役の方に、ネタを変えてまたやって下さいと、お礼の言葉と共にお願いされました。健全な高齢者の人たちへのボランティアはやはり少し気を使いますが、反応もはっきりあり、それなりにやり甲斐があるものだと思います。

